



星月夜

ほしづきよ。ほしつくよ、とも読みます。古くは月を、熟語の場合「つく」と読んでいたようです。

星月夜とは、どんな風情のことなのでしょう。これは、月の出ていない夜、満天の星の光で、まるで月夜のように明るい趣のことを言います。

秋の風情といえば、月明かり、虫の鳴き声などのほか、読書で夜長を楽しむことを思い出します。また、秋は空気も澄んで、星もきれいに見えます。それでも星月夜を楽しむのは、月の出ていない夜ですから、めったに出合えない貴重なことといえます。

最近、月の出ていない夜でも、〈ネオン月夜〉や〈街灯月夜〉が目立ちます。田舎でも、なかなか満天の星に親しめることが少なくなってきているのは、寂しいことです。